

日中韓シンポジウム「新しい連携と地域アイデンティティの形成にむけて」開催**概 要**

九州大学アジア総合政策センターの主催、中国社会科学院、韓国・東国大学校の共催で、2月1日（木）と2日（金）に九州大学医学部百年講堂（福岡市東区馬出）で開く国際シンポジウムです。メディア文化、医療や生命倫理、産業連携、高齢化社会対応などをテーマに、日本、中国、韓国の研究者や実務者 40 人余りが集い、3カ国の連携強化に向けて議論します。九州大学が広域分野にまたがって日中韓という枠組みのシンポジウムを開催するのは初めてのことです。社会に開かれた大学づくりという方針に沿って、一般市民の参加も歓迎し、議論に加わっていただきます。

■ 背 景

小泉前内閣時代、靖国神社参拝などをめぐって、日本と中国、韓国との関係が悪化の一途をたどりました。日中韓の間では首脳会談もできない状態に陥りましたが、昨年9月の新内閣発足後まもなく安倍首相は最初の訪問国に中国と韓国を選んで両国重視の姿勢を示し、日中韓の首脳会談がこの14日、2年2カ月ぶりに実現しました。

本シンポジウムは、こうした転換期にある日本・中国・韓国3カ国の協力と連携強化に向けて、九州大学が企画した催しです。議論のテーマは、医療・生命倫理、高齢化社会対応など九州大学の得意とする分野や、当地で活発なポップカルチャー交流や産業連携を選びました。「アジアの玄関口」である九州にとって、韓国と中国は最重要パートナー国であり、両国との共生なしに明るい未来は開けそうにありません。大学人としても日中韓の相互理解や連携強化に向けて貢献できることは多いと思います。九州大学は創立以来、アジアに開かれた大学を目指しており、2004年の国立大学法人に移行後は、社会にいっそう開かれた大学づくりに努めています。こうした大学の方針と使命を踏まえ、日中韓の研究者、実務家に一般市民も交えて、専門分野を横断しながら知見や経験を報告し合い、将来この地域に欧州共同体（EU）のような共通の地域アイデンティティが徐々に形成されていくのかどうかを展望します。

■ 内 容

2月1日午前10時～12時に蔣立峰・中国社会科学院日本研究所所長（「日中歴史共同研究」グループの一員）と洪潤植・東国大学校日本学研究所所長（韓国における仏教研究の第一人者）がそれぞれ基調講演を行い、「北東アジア共同体」や「文化の東アジア主義」などを提唱します。午後1時～5時半には、ジャーナリズム、企業の国際分業、高齢化社会対策などの分野での連携や、EUの経験を踏まえて東アジア統合の可能性などについて、専門家の報告があります。その後、「日中韓に新しい東アジアのアイデンティティは形成されるか」をテーマに、メディア文化、生命倫理、農業など異分野の研究者たちがパネルディスカッションを行います。

2月2日は午前9時～12時と午後1時～3時にかけて、「ポップカルチャーと基底文化」

「医療・生命倫理」「産業連携」「高齢化社会とアクティブ・エイジング」の4分科会に分かれて、同時併行で3カ国の研究者らが発表と議論を続けます。

このあとの午後3時～5時には「東アジアにおける臓器移植と生命倫理」をテーマに、清華大学（北京）、ソウル大学を結んでのテレコンファレンスを行います。医師、研究者のほか、患者も交えて日中韓で3元同時会議を開くのは、全国でも初めての試みです。九州大学の会場の大スクリーンには北京、ソウルの会場が映し出され、発表と討論が行われます。

参加費は無料ですが、ファックスかEメールでの事前申し込みが必要です。参加定員は、初日会合と2日のテレコンファレンスは500人、分科会は先着40～120人です（会場によって異なります）。申し込み先は、九州大学アジア総合政策センター（電話：092・642-4433、fax:092・642-4435、Eメール：asia@isc.kyushu-u.ac.jp）です。催しの詳細は、九州大学アジア総合センターのホームページ（<http://asia.kyushu-u.ac.jp>）をご覧ください。

■ 効果

本シンポジウムでは、急速に進む少子高齢化や、欧米諸国に比べて進まない臓器移植など、3カ国の共通課題に焦点をあてて議論し、今後、協力や連携を強めることができそうな分野や方策を具体的に探り出します。これによって、3カ国の相互理解への寄与や研究協力の輪を広げ、ポップカルチャー交流など行政の取り組みも後押しします。また、アジア重視戦略を進める九州大学のアジア各国の大学との研究者・学術交流の強化にもつなげていきます。発表者の方々からは、日中韓のさらなる連携と明るい未来に向けて新たな知見や提言を頂けることが期待され、その成果を行政当局への政策提言のほか、市民社会に向けてのメッセージとして発信していきます。

■ 今後の展開

本シンポジウムは、日中韓の間で研究者らが広域分野にまたがって同時に議論する、九州大学としては初めての試みです。今後も、日中韓という枠組みでの催しや学術・研究交流を継続、強化し、環境問題をはじめ今回のシンポジウムで十分に取り上げることができなかった分野を含めて、3カ国の共通課題とその解決に向けての努力を続けてまいります。

【お問い合わせ】

アジア総合政策センター教授 坪田邦夫

電話：092-642-4433

FAX：092-642-4435

Mail：asia@isc.kyushu-u.ac.jp